

証券コード：4569

健康はキョーリンの願いです。

第60期 中間株主通信 | 2017年4月1日～2017年9月30日

Kyorin 



キョーリン製薬ホールディングス株式会社

私たちキョーリン製薬グループは、新たな発想で「変革」に挑戦し、 長期ビジョン「HOPE100」の実現を目指します。

平素よりキョーリン製薬グループに対しまして格別のご理解
とご支援を賜り、誠に有難うございます。

当社グループの2017年4月1日から2017年9月30日ま
での第60期第2四半期(以下「中間期」という)につきまして、事業
の概況をご報告申し上げます。



当社グループは、「キョーリンは生命を慈しむ心を買き、人々
の健康に貢献する社会的使命を遂行します。」という企業理念
の具現化に向け、当社グループの中核企業である杏林製業
(株)の創業100周年(2023年)をみすえた長期ビジョン
「HOPE100」を策定し、その実現に真摯に取り組んでおります。

医療用医薬品事業を取り巻く外部環境が一層厳しさを増す
中、当社グループは、主力製品の特許満了等、これまでにな
い大きな経営環境に直面しています。このような不透明か
つ非連続な状況の下では、既存の考え方だけで課題に対応す
ることは困難であり、これまでの業務遂行の仕組みをダイナ
ミックに創り変え、過去の延長線上にはない新たな取り組みを
創造・実行していくことが求められます。

当社グループは、さらなる基盤強化と持続成長を図るべく、
昨年度から中期経営計画「HOPE100-ステージ2-(2016年
度~2019年度)」を策定しスタートしました。ステージ2におけ
るステートメントを「長期ビジョン実現に向けて、変革(変化と
革新)を行い、持続成長を図る」とし、その目標達成に向けて、
グループ社員が一丸となり全力で取り組んでまいります。

引き続き、なお一層のご支援を賜りますようよろしくお願い
申し上げます。



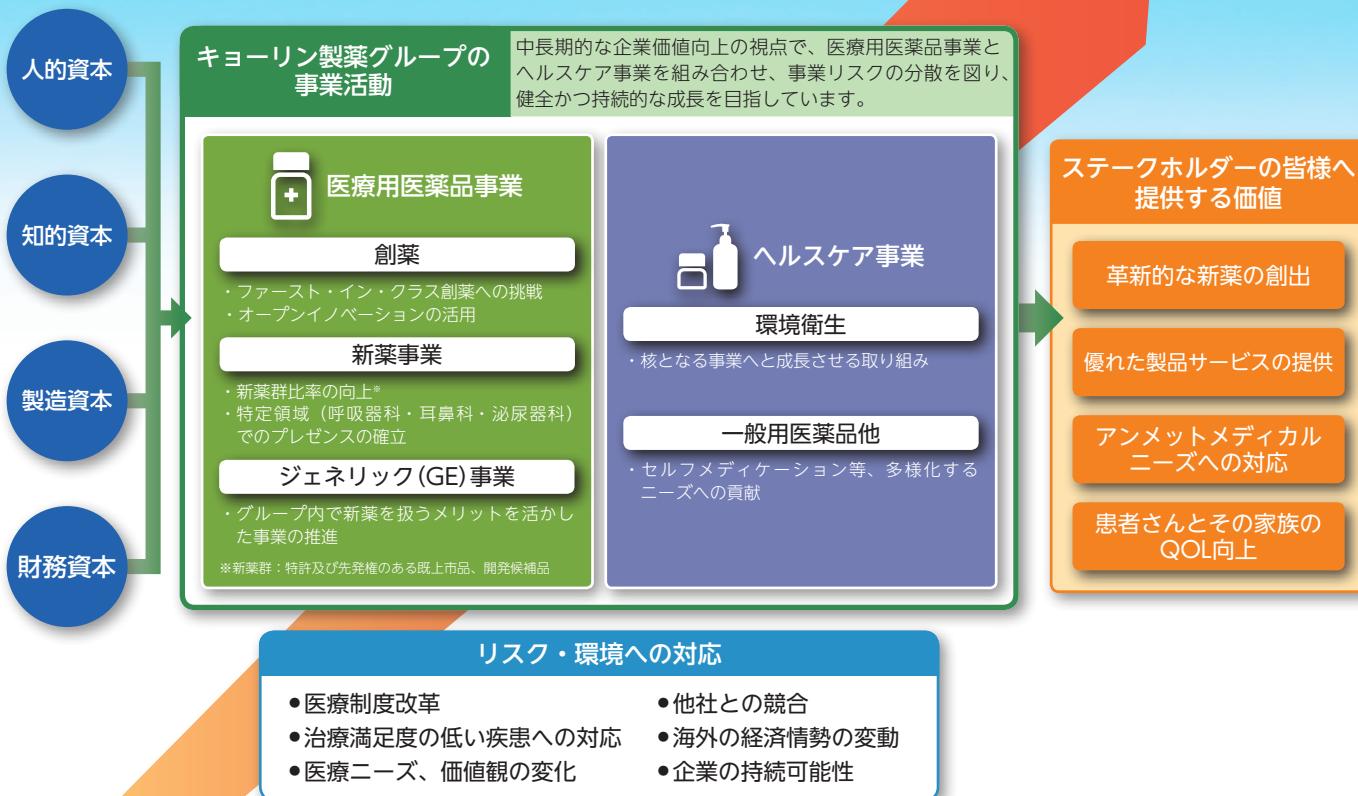
代表取締役会長
山下 正弘

代表取締役社長
穂川 稔

キョーリン製薬グループが目指す企業像と価値創造プロセス

キョーリン製薬グループは、製薬メーカーにとって世界の人々の健康に貢献する革新的な新薬を継続的に創出し届けることが使命であり、自分たちの価値創造の源泉であると考えています。私たちは医療用医薬品事業を中核としつつ、多様な健康ニーズへの対応、及び医療用医薬品事業の成長補完の観点からヘルスケア事業を複合的に組み合わせた事業展開を行い、様々な資本を活用し、ESG（環境・社会・ガバナンス）への対応を行いながら、企業価値の向上に取り組んでいます。

2023年の未来像
長期ビジョン
「HOPE100」
健康生活応援企業へ



・当中間期の概況

当中間期における国内医薬品業界は、社会保障費の財源確保を背景とした薬剤費抑制策等が推進され、市場成長は低位に推移しました。また当社グループにおきましては、主力製品の特許満了による売り上げへの影響が本格化するなど、これまでにない企業行動が必要な局面を迎えました。

このような状況下、当社グループは長期ビジョン「HOPE100」の実現に向けて、2016年度を初年度とする中期経営計画「HOPE100－ステージ2－(2016年度～2019年度)」のもと、2017年度は経営方針に「多様な知の結集による変革の推進」を掲げ、医療用医薬品事業では持続成長を可能とする医薬事業モデルの進化に取り組み、ヘルスケア事業[※]では核となる事業づくりを推進し、成果目標の達成とステークホルダーの皆様からの支持・評価の向上に努めました。

※環境衛生、一般用医薬品他

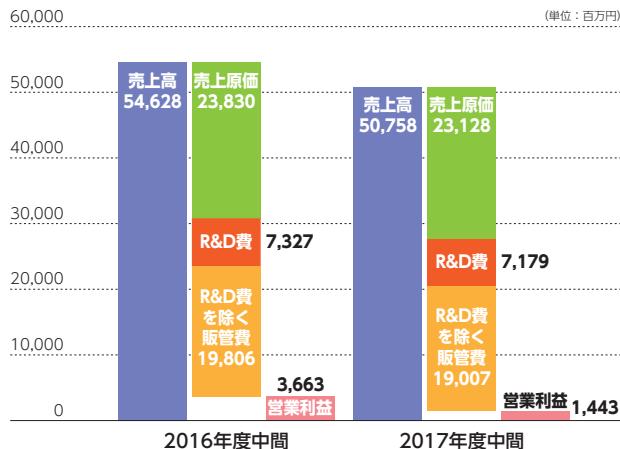
この結果、医療用医薬品事業において新医薬品(国内)が主力製品「キプレス」の特許満了を主因として減少し、後発医薬品はモンテルカスト(キプレス)のオーソライズド・ジェネリック(以下「AG」という)の販売拡大により増加したものの、

前年を下回る実績で推移しました。ヘルスケア事業の売り上げは微増となりましたが、全体として507億58百万円と前年同期比38億69百万円(前年同期比7.1%減)の減収となりました。

利益面では、新医薬品(国内)の売り上げ減少及び棚卸資産の除却損等の増加により売上総利益は前年同期に対して31億67百万円減となりました。販売費及び一般管理費につきましてはコスト削減に取り組み、前年同期に対して9億47百万円減少(内、研究開発費1億48百万円減)しましたが、営業利益は14億43百万円(前年同期比60.6%減)となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、ドクタープログラム(株)の株式譲渡益約6億円を特別利益に計上し、導出品(ガチフロキサシン点眼液)に関する米国反トラスト法違反を理由とした集団訴訟に伴う和解関連費用約4億円を特別損失に計上したことから12億40百万円(前年同期比53.8%減)となりました。

なお、当中間配当金につきましては、1株につき20円をお支払いさせていただきます。

損益の概要



医療用医薬品事業

■ 新医薬品(国内)

国内医療用医薬品の市場構造が変化する中、杏林製薬(株)は特定領域(呼吸器科・耳鼻科・泌尿器科)の医師、医療機関に営業活動を集中するFC(フランチャイズカスタマー)戦略の進化及び、エリアマネジメントを軸とした営業戦略の実行をベースとして、中期経営計画の重点戦略である「新薬群比率の向上」に



喘息治療配合剤
フルテフォーム



持続性選択H₁受容体拮抗・アレルギー性疾患治療剤
デザレックス

向けて、主力製品の普及の最大化並びに新製品の早期浸透に取り組みました。当中間期におきましては、喘息治療配合剤「フルティフォーム」及び、2016年11月に新発売したアレルギー性疾患治療剤「デザレックス」の処方拡大に努め、両製品はともに想定どおり伸長したものの、2016年度に特許満了を迎えた気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤「キプレス」及び、長期収載品である気道粘液調整・粘膜正常化剤「ムコダイン」等の売り上げが減少し、売上高は344億49百万円(前年同期比16.5%減)となりました。

■ 新医薬品(海外)

広範囲抗菌点眼剤「ガチフロキサシン(導出先:米国アラガン社)」のロイヤリティ収入の増加により、売上高は5億23百万円(前年同期比52.5%増)となりました。

■ 後発(ジェネリック)医薬品

杏林製薬(株)の主力製品である気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤「キプレス」の特許満了に対応し、2016年9月にキョーリン リメディオ(株)より発売した「モンテルカスト錠10mg・5mg[KM]」(杏林製薬(株)とMSD(株)が販売している「キプレス」及び「シングレア」のAG)の大幅な売り上げ増加を主因として、売上高は130億05百万円(前年同期比26.0%増)となりました。

この結果、当セグメントの売上高は479億77百万円(前年同期比7.6%減)となり、セグメント利益は12億22百万円(前年同期比65.7%減)となりました。

研究開発の状況につきましては、医療用医薬品に関わる新薬メーカーにとっては、未だ数多く存在するアンメットメディカルニーズに応え、世界の人々の健康に貢献する革新的な新薬を継続的に創出し、届けることが使命です。杏林製薬(株)では、オリジナル新薬の創製こそが真の成長の原動力であり、新薬事業の強化が当社グループの存在意義を高め、持続成長に結びつくとの認識に基づき、自社創薬及び導入品の開発等を進め、特定領域(呼吸器科・耳鼻科・泌尿器科)における開発パイプラインの拡充、新薬の早期開発に最大限、注力しています。

国内開発の進捗状況としましては、喘息治療配合剤「KRP-108P」のPh(フェーズ)Ⅲ臨床試験を2017年6月より開始しました。同試験は、成人喘息を対象として販売中の「フルティフォーム」の小児適応拡大を目的とするものです。また、過活動膀胱治療剤「KRP-114V」につきましては、2017年9月、厚生労働省に製造販売承認申請を提出しました。なお、2017年4月、厚生労働省に製造販売承認申請を提出したキノロン系合成抗菌剤「KRP-AM1977X」につきましては、追加の非臨床試験が必要となり、同7月、追加試験の実施を決定いたしました。また、耳鳴治療剤「KRP-209」につきましては、これまでPhⅡ臨床試験を実施してまいりましたが、当該臨床試験を終了し成績を評価した結果、本剤に期待していた有効性が見出せなかったことから、この度、開発中止を決定しました。

創薬研究におきましては、オープンイノベーションの一環として、京都大学との共同研究講座「呼吸器疾患創薬講座」を2017年4月に開設し共同研究を開始しました。京都大学が持つ病態研究力(肺線維症等の臓器線維化プロセス)及び、基礎



気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤
キプレス



気道粘液調整・粘膜正常化剤
ムコダイン



潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤
ペンタガ



過活動膀胱治療剤
ウリツス

研究力(iPS細胞を用いた技術基盤の応用)と杏林製薬(株)が有する創薬力を融合させ、呼吸器疾患の病態因子を同定し創薬ターゲットとしての可能性を検証研究することで、新規創薬ターゲットの創出、低分子化合物候補の発見等を目指します。

以上の結果、研究開発費は71億79百万円(前年同期比2.0%減)となりました。

ヘルスケア事業

中期経営計画に掲げる育成戦略「環境衛生の事業成長と既存事業との連携強化により核となる事業を作る」の達成に向けて、環境衛生における製品ラインアップ拡充と売り上げ拡大に努めました。環境衛生・一般用医薬品他の売り上げは、主要製品である環境除菌・洗浄剤「ルビスタ」、哺乳びん・乳首・器具等の消毒剤「ミルトン」の伸長に加えて、日本エア・リキード(株)との販売業務提携によって、2017年3月から取り扱いを開始した手指衛生製品群の売り上げが寄与し、前年を上回る実績で推移しました。他方、ドクタープログラム(株)の全株式を大正製薬(株)に2017年4月1日付けで譲渡したことから、スキンケア製品の売り上げは減少しました。

この結果、当セグメントの売上高は27億81百万円(前年同期比3.3%増)となり、セグメント利益は75百万円(前年同期はセグメント損失27百万円)となりました。

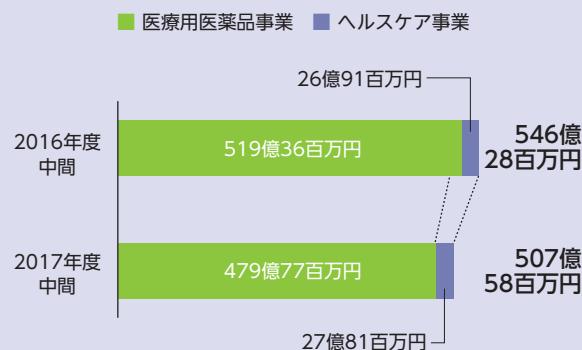


環境除菌・洗浄剤
ルビスタ



哺乳びん殺菌消毒剤
ミルトン

セグメント別売上高



通期の見通し

当中間期までの各事業における業績推移を勘案し、2017年5月11日に公表しました連結業績予想(通期)を以下のとおり修正いたしました。

売上高は、新医薬品(国内)の主力製品(キプレス他)及び後発医薬品の売り上げ(主に他社向け売上)が当初予想を下回る見通しとなったことから、下方修正いたしました。利益面は、当初予想よりも売り上げが減少し、棚卸資産の除却損等が増加する見通しとなったことから、営業利益、経常利益及び、親会社株主に帰属する当期純利益を下方修正いたしました。また、当初予想に見込んでいなかったガチフロキサシン点眼液に関する集団訴訟の和解関連費用約4億円を当中間期において特別損失として計上いたしました。

2018年3月期連結業績予想(修正) (2017年11月6日公表)

売上高	1,113億円 (前期比3.5%減)
営業利益	105億円 (前期比0.8%増)
経常利益	109億円 (前期比0.2%増)
親会社株主に帰属する当期純利益	78億円 (前期比6.8%増)

主な開発品の動向 | Products under Development

(2017年11月6日現在)

Ph (フェーズ) I ~承認 (上市)

製品名・開発コード	薬効	起源	特徴	開発段階
				フェーズⅠ フェーズⅡ フェーズⅢ 申請 承認
KRP-114V	過活動膀胱	米国 メルク社	<ul style="list-style-type: none"> 従来の過活動膀胱治療薬と比較して、副作用が少なく、服薬コンプライアンスが高まることが期待される β3作動薬として、薬物相互作用が少ない 本剤が分類されるβ3作動薬は、過活動膀胱治療におけるファーストラインとなる可能性がある 	国内 2017年9月
KRP-AM1977X (経口剤)	キノロン系 合成抗菌剤	自社	75mg 1日1回投与で優れた臨床効果を確認 (市中呼吸器感染症・耳鼻咽喉感染症) <ul style="list-style-type: none"> 呼吸器、耳鼻科感染症の起炎菌、及びβラクタム系・マクロライド系抗菌薬耐性株に対して強力な抗菌活性を示す 血漿比10倍を超える肺組織への良好な移行性 	国内 2017年4月
KRP-AM1977Y (注射剤)	キノロン系 合成抗菌剤	自社	高い安全性が期待される <ul style="list-style-type: none"> 同系統の抗菌剤で懸念される、血糖値異常、光線過敏症、関節障害、消化器症状などを引き起こす可能性は低い 	国内 2016年3月
KRP-116D	間質性膀胱炎 治療剤	—	医療上の必要性の高い未承認薬・適用外薬に該当する「ジメチルスルホキシド」	国内 2017年3月
KRP-108P	気管支喘息	英国 ベクチュラ社	喘息治療配合剤「フルティフォーム」の小児適応拡大	国内 2017年6月
Ad-SGE-REIC	悪性胸膜中皮腫	岡山大学	岡山大学で発見された新規がん抑制遺伝子REICを使用する遺伝子治療薬。がん細胞選択的アポトーシスと抗がん免疫の活性化を誘導することが期待される	国内 2015年7月 Ph I / II
【導出品】				
KRP-203	移植片対宿主病 (GvHD)	自社	S1P受容体アゴニスト。免疫調整剤	海外 ノバルティス
—	非開示	自社	FPR2作動薬。主に好中球の遊走を抑制し抗炎症作用を示す	海外 ※前臨床(米国プリストル・マイヤーズスクイブ社)

開発プロセスの概要

フェーズⅠ

(第Ⅰ相臨床試験)

同意を得た少数の健康志願者を対象に、安全性のテストを行う臨床試験

フェーズⅡ

(第Ⅱ相臨床試験)

同意を得た少数の患者さんを対象に、有効で安全な投薬量や投薬方法などを確認する臨床試験

フェーズⅢ

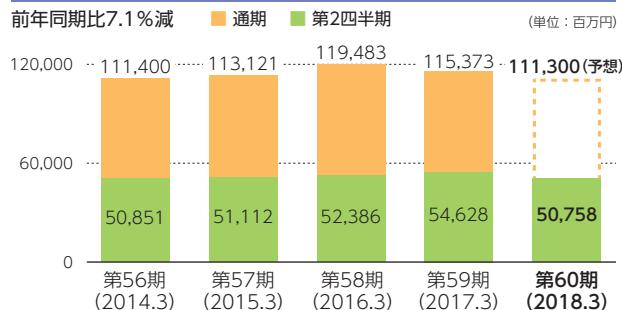
(第Ⅲ相臨床試験)

同意を得た多数の患者さんを対象に、既存薬などと比較して新薬の有効性及び安全性をチェックする臨床試験

申請

有効性・安全性が確認された新薬の製造販売承認を厚生労働省に申請

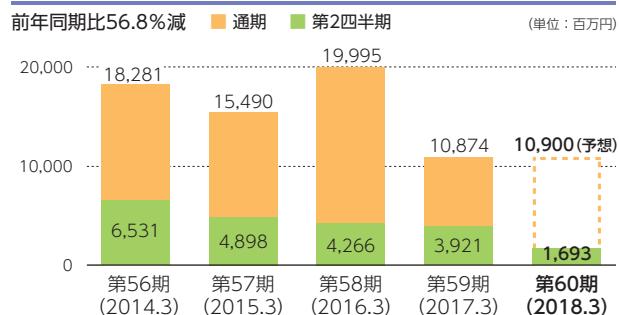
売上高 50,758百万円 ▶ 通期予想111,300百万円



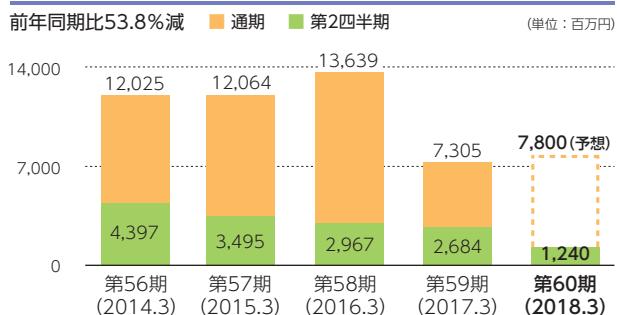
営業利益 1,443百万円 ▶ 通期予想10,500百万円



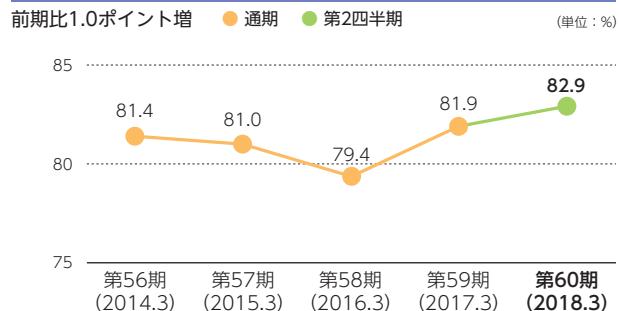
経常利益 1,693百万円 ▶ 通期予想10,900百万円



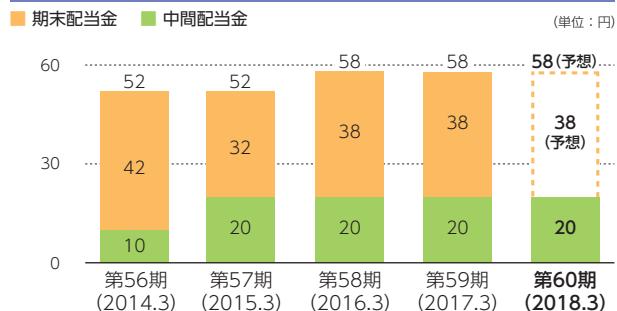
**親会社株主に帰属する
四半期(当期)純利益** 1,240百万円 ▶ 通期予想7,800百万円



自己資本比率 82.9%



配当金 20円 ▶ 年間配当金予想58円



四半期連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

	前期末 2017年3月31日現在	当第2四半期末 2017年9月30日現在
【資産の部】		
流動資産	126,267	117,333
固定資産	66,400	72,659
有形固定資産	22,432	22,728
無形固定資産	1,204	1,672
投資その他の資産	42,763	48,258
資産合計	192,668	189,993
【負債の部】		
流動負債	25,033	22,835
固定負債	9,797	9,656
負債合計	34,831	32,492
【純資産の部】		
株主資本	152,585	151,308
資本金	700	700
資本剰余金	4,752	4,752
利益剰余金	150,301	148,702
自己株式	△3,168	△2,846
その他の包括利益累計額	5,251	6,192
純資産合計	157,837	157,501
負債純資産合計	192,668	189,993

四半期連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

	前第2四半期 2016年4月1日から 2016年9月30日まで	当第2四半期 2017年4月1日から 2017年9月30日まで
売上高	54,628	50,758
売上原価	23,830	23,128
売上総利益	30,797	27,630
販売費及び一般管理費	27,134	26,186
営業利益	3,663	1,443
営業外収益	276	325
営業外費用	17	75
経常利益	3,921	1,693
特別利益	0	627
特別損失	88	420
税金等調整前四半期純利益	3,833	1,900
法人税、住民税及び事業税	679	487
法人税等調整額	468	172
四半期純利益	2,684	1,240
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,684	1,240

四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

	前第2四半期 2016年4月1日から 2016年9月30日まで	当第2四半期 2017年4月1日から 2017年9月30日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	14,514	7,260
投資活動による キャッシュ・フロー	△3,895	△3,928
財務活動による キャッシュ・フロー	△4,114	△2,685
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△526	△9
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	5,978	637
現金及び現金同等物の 期首残高	45,043	42,499
現金及び現金同等物の 四半期末残高	51,021	43,137

▶2017年10月 新生産子会社設立

当社グループは、中期経営計画「HOPE100－ステージ2－」の重点戦略の1つに「ローコスト強化：グループ内最適化によるコスト構造の変革」を掲げ、グループ内生産の協業による全体最適化に取り組んでおります。

2017年10月、新生産子会社「キョーリン製薬グループ工場(株) (東京都千代田区)*」を設立し、2018年4月を目処に、当社連結子会社である杏林製薬(株)の能代工場(秋田県能代市)及び、キョーリン リメディオ(株)の生産本部(富山県南砺市)を吸収分割により新生産子会社へ承継させ、当社連結子会社であるキョーリン製薬グループ工場(株)(滋賀県甲賀市)を吸収合併により新生産子会社に統合することを予定しております。

この新生産子会社の設立及び生産機能の集約は、工場稼働率の平準化と資産の効率活用に取り組み、高品質の製品を安定的に低コストで供給する競争力のあるグループ生産体制の構築を進めるためのものです。

2018年4月 新生産子会社 に統合



杏林製薬株式会社能代工場
(秋田県能代市)



キョーリン リメディオ株式会社生産本部
(富山県南砺市)



キョーリン製薬グループ工場株式会社
(滋賀県甲賀市)

*新生産子会社の名称は、生産機能の集約後を想定して決定しており、当社連結子会社であるキョーリン製薬グループ工場(株)(滋賀県甲賀市)と同一の名称としております。キョーリン製薬グループ工場(株)(滋賀県甲賀市)は、生産機能の集約のための吸収合併に際して、消滅会社となる予定です。

▶2017年9月 子会社吸収合併

当社グループは、中期経営計画「HOPE100－ステージ2－」におきまして、感染症の治療(医療用医薬品)、環境感染の制御(環境衛生)に関わる事業に取り組んでおります。杏林製薬(株)では(株)ジェイタスの全株式を2017年7月3日に取得し、同9月30日に吸収合併いたしました。同社は国立研究開発法人 産業技術総合研究所(以下、産総研)が開発した技術を産業活用することを目的に設立された産総研発ベンチャーで、PCR装置*を独自技術で改良し、短時間で細菌・ウイルス等を同定することができる超高速遺伝子定量装置「GeneSoC®」を開発しました。当社グループは、同技術を活用することで感染症の治療、診断に関わる事業を強化できるものと期待しております。

*Polymerase Chain Reactionの略。ポリメラーゼ連鎖反応のことで、遺伝子を増幅させる技術。

▶2017年6月 新研究所竣工

当社グループは、中期経営計画「HOPE100－ステージ2－」の重点戦略の1つとして「特色を活かしたジェネリック(GE)事業の推進」を掲げ、キョーリン リメディオ(株)におけるGE事業の強化を目的として、2017年6月に新研究所「高岡創剤研究所」を竣工、同7月より稼働いたしました。

当研究所は複数の治験製薬製造ラインを有しており、これまで以上に多くの固形剤及び、液剤の開発研究に取り組むとともに、製薬開発の質の向上とスピードアップを図ります。



【新研究所の概要】

土地：富山県高岡市オフィスパーク11番
建物：建築面積1,809㎡、延べ床面積3,510㎡
S造+耐震構造、地上3階建て
竣工：2017年6月
運用開始：2017年7月

会社概要

商号	キョーリン製薬ホールディングス株式会社 (英文: KYORIN Holdings, Inc.)
事業内容	創薬ビジネス・医薬事業等を営む子会社を中心とするグループ全体の経営戦略機能を担う持株会社
本社所在地	〒101-8311 東京都千代田区神田駿河台4丁目6番地
設立	1958年(昭和33年)
資本金	7億円
従業員	114名(連結2,378名)

グループ会社(連結子会社)

- 杏林製薬株式会社(東京都千代田区)
- キョーリン リメディオ株式会社(石川県金沢市)
- キョーリン メディカルサプライ株式会社(東京都千代田区)
- キョーリン製薬グループ工場株式会社(滋賀県甲賀市)

株式の状況

発行可能株式総数	297,000,000株
発行済株式の総数	74,721,298株
	(自己株式226,330株を除く)
当中間期末株主数	6,121名

役員

取締役及び監査役	やま した まさ ひろ 山 下 正 弘
代表取締役会長	ほ がわ のり 穂 川 稔
代表取締役社長	まつ もと ともみ はる 松 本 春
専務取締役	おぎ はら 豊 荻 原 豊
常務取締役	おぎ はら しげる 荻 原 茂
常務取締役	あ く つ けん じ 阿久津 賢 二
取締役	さ さ はら とみ や 笹 原 富 弥
取締役	おお の た みち ろう 大野田 道 郎
取締役(社外)	しか ない のり けん 鹿 内 徳 行
取締役(社外)	しげ まつ けん けん 重 松 健
取締役(社外)	こ とう しょう 陽 後 藤 陽
常勤監査役	みや した せい 征 宮 下 征
常勤監査役	は ま ひろ 寛 晃 羽 磨 寛 晃
監査役(社外)	お ばた まさ 雅 二 小 幡 雅 二
監査役(社外)	こ にし ゆう 勇 二 小 西 勇 二
監査役(社外)	やま ぐち たか お 山 口 隆 央
執行役員	い とう しょう 洋 伊 藤 敬
上席執行役員	たか はし けい 敬 高 橋 敬
上席執行役員	お に 井 康 夫 高 井 康 夫
執行役員	お 小 尾 紀 行 小 尾 紀 行

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月に開催
基準日	定時株主総会の議決権 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
単元株式数	100株
株主名簿管理人 (特別口座管理機関)	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
(お問合せ先)	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-288-324(フリーダイヤル)
お取扱店	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほ証券株式会社 本店及び全国各支店
公告掲載紙	日本経済新聞

(ご注意)

1. 口座管理機関(証券会社等)の口座に株式をお預けの株主さまの場合
住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、お取引の口座管理機関(証券会社等)が窓口となります。
株主名簿管理人(みずほ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式をお持ちの株主さまの場合
住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、みずほ信託銀行証券代行部(株主メモ参照)にお問合せ願います。
3. 同封の「配当金計算書」は、確定申告の際の参考資料としてご利用いただけます。株式数比例配分方式を選択された株主さまにつきましては、お取引の証券会社にご確認ください。
4. 未受領の配当金につきましては、左記お取扱店(株主メモ参照)及びみずほ銀行本店・全国各支店でお支払いいたします。

ホームページのご案内 <http://www.kyorin-gr.co.jp/>



株主の皆さまにタイムリーな情報をお届けいたしておりますのでぜひご覧ください。

ホームページサイト

キョーリン製薬グループについて	企業理念、長期ビジョン、中期経営計画 等
グループ事業	トップメッセージ、グループの歴史、グループの全体像、価値創造プロセス、事業の概要 等
株主・投資家情報	中期経営計画、研究開発パイプライン、財務・業績、IRライブラリ、株式情報 等
CSR活動、企業情報	等

株主の皆さまの声をお聞かせください

当社では、株主の皆さまの声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

 <http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 4569

いいかぶ

検索



空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

- アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を呈呈させていただきます



※本アンケートは、株式会社 a2media(エー・ツー・メディア)の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社 a2mediaについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>) ※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

- アンケートのお問合せ TEL: 03-5777-3900 (平日 10:00~17:30)
「e-株主リサーチ事務局」 MAIL: info@e-kabunushi.com

キョーリン製薬ホールディングス株式会社

〒101-8311
東京都千代田区神田駿河台4丁目6番地
TEL:03-3525-4700(代)



PROJECT-
With the Earth
この冊子の印刷・製本に係るCO₂は
PROJECT- With the Earth を
通じてオフセット(相殺)しています。



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。

